

それだけに道路に対する思いは強く、ついつい道路畑の若い職員の指導には熱が入ってしまいます。

「これまでの経験から、いろいろなことが見えてしまうんですね。それで、ついつい口うるさくなってしまおう（笑）。しかしながら、快適な道路を維持管理するのがわたしたちの仕事。若い人に煙たがられようが（笑）、言うべきことはしっかり言うようにしています。河川や海岸の仕事については、これからも勉強するという気持ちを持つようにはしているんです」

事務所内で所長の席は、事務室の入口を入ってすぐの所。個室にせず、職員全員がオープンフロアで仕事をしています。居ながらにしてあっちこっちから話が聞こえてくるので「おい、アレどうなった？」と随時いろいろな確認ができるというメリットがあるそうです。また、入口に近いということは、住民に一番近い席ということ。地域住民の声にもしっかりと耳をかたむけています。

苦情が入ることも往々にありますが、地域住民の方たちと協力して管内の環境を整える事業も盛んに行っています。標津川の支流、タワラマップ川の清掃を地元広陵中学校の生徒と一緒に実施。中学生たちが自然の貴さを学ぶ大切な機会になっているようです。さらに地元のシルバー人材センターのお年寄りの協力を得て、道路に花を植え、育てる事業も促進しています。季節の花が道路を彩り、街並もドレスアップ。クリーンで安全・快適な道路の維持管理を常に心掛けています。



稲毛 誠一 所長



出張所内風景

● チームワークの良さで

豊かな生活環境づくりを

「いい雰囲気の出張所」と稲毛所長がいう理由に、どうやら野球の強さもあげられるようです。実は今年9月5、6日と札幌で行われたオール土木野球大会で、中標津出張所は見事優勝を果たしました。管内の予選を勝ち抜いて、さらに全道一の栄誉に輝いたわけです。これまで、なかなかそうした機会に恵まれず約30年ぶりの快挙とか。稲毛所長が監督を務められ「チームワークの良さが勝利の道を切り開いた」とも。

これは仕事にも共通することで、職員のチームワークの良さがきっといい仕事につながっていくはずですよ。

「和をもって成す。この気持ちが大事です。職員同志はもちろん、地域住民の方や、外注の業者さんともしっかりと連携し合って、快適な生活環境を整え、豊かに暮らしていける地域づくりに貢献したいと思います」と語る稲毛所長の表情は、台風対策でここ何日が大変忙しくされていたにもかかわらず、とても晴れ晴れとしていました。



チームワークの良さが優勝を導いた中標津出張所野球チーム

(平成10年9月7日 取材)